

JAグループ鳥取自己改革推進レポート（6月号）

1. 新たな販売戦略で産地をPR！（JA全農とっとり）

青果物の本格出荷が始まる中、今年は新型コロナウイルスの影響で、これまでのような試食宣伝や出向く産地PRができない状況が続いている。全農とっとりでは、ラジオやSNS、ロボット等を通じて「鳥取ブランド」のPR活動を展開している。

大阪市中央卸売市場で行われた「鳥取すいかセレモニー」についても、産地側からの参加が難しく、代わりに人型ロボットの「Pepper」が産地の思いとともに熱いメッセージを届けた。

また、鳥取と大阪会場をweb会議で結び、産地情報の発信とトップセールスで「鳥取すいか」をPRした。



産地メッセージを伝える Pepper



産地メッセージを聞く市場関係者

2. 新型コロナウイルス感染症の影響拡大を踏まえた農業者の資金繰り支援について

(JA鳥取信連)

新型コロナウイルス感染症により、直接的もしくは間接的な被害を受け、JAから資金の融資を受ける農業者に対して、JA鳥取信連および農林中央金庫が鳥取県から一部支援を受け利子補給を行う。

あわせて、JA鳥取信連および農林中央金庫が保証料助成を行い借入負担の軽減策を図ることで、JAバンク鳥取として農業者の経営を支援する。

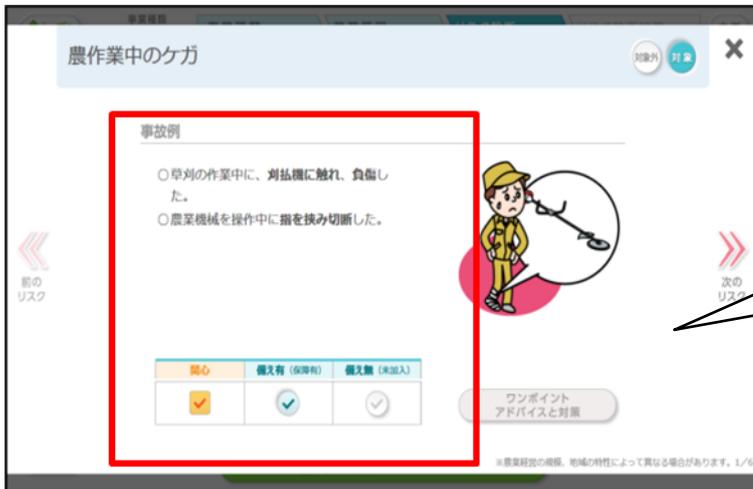
融資対応の内容は以下のとおり。

資金名称	新型コロナウイルス感染症対策資金（運転資金）
借入対象者	新型コロナウイルス感染症により被害を受けられた農業者等
金額	個人：300万円以内または前年度農業収入の30%のいずれか低い金額 法人：500万円以内
借入期間	1年以上10年以内のJA所定の期間
借入時期	令和2年6月1日から令和3年3月31日までの借入れ分
利率および利子補給	JA所定の利率（固定） 借入日から最大5年間、1.5%以内の利子補給がある。
保証および保証料助成	鳥取県農業信用基金協会による保証 前取り一括保証料全額を助成する
担保	担保設定させていただく場合がある。

3. 農業リスク診断活動の取り組み（JA共済連鳥取）

農業者に対して、農業経営を取り巻くリスクに関する意識喚起を行うとともに、リスク対策の有無の確認を行い、明らかになったリスクに対する保障提案を行う「農業リスク診断活動」を実施している。

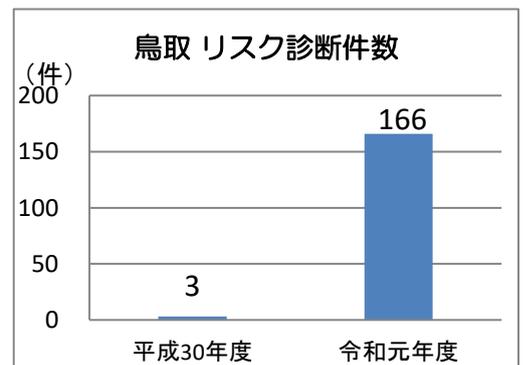
農業リスク診断システムのイメージ（Lablet's画面）



農業を営むうえで発生する事故例を参考に、リスクに対する「関心」や共済・保険による「備えの有無」を確認していきます。



リスクに対する「関心」や「備えの有無」等の診断結果が確認できます。



平成30年度からは、TACや営農指導員による活動を開始し、また、令和元年度ではJA共済部門のLAを中心とした活動を開始した。その結果、農業リスク診断件数は平成30年度に比べ、伸張している。